

令和8年度 指導計画・評価計画表 【2年生 数学科】

観点 **1** 知識・技能 **2** 思考・判断・表現 **3** 主体的に学習に取り組む態度

指導単元	観点	単元の評価基準	具体的評価基準（おおむね満足 B）	評価方法・場面	弱点克服
1章 式の計算	1	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式で表現したり、その意味を読み取ったり、簡単な整式の加法や減法の計算をしたり、単項式の乗法や除法の計算をしたり、簡単な式の変形をしたりするなど、技能を身に付けている。 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることなどを理解し、知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法・減法の計算ができる。 単項式の乗法・除法の計算ができる。 数量及び数量の関係を、文字を用いた式で表すことができる。 具体的な場面で、数量を表す式や関係を表す式を、目的に応じて変形することができる。 文字を用いた式の意味を読み取ることができる。 単項式や多項式、同類項の意味を理解している。 数量及び数量の関係を帰納や類推によってとらえ、それを文字を用いた式を使って一般的に説明することの必要性和意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 単元テスト 練習課題 単元章末レポート ふり返しシート 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業 学習教室 机間指導 指導助言 指導方法の工夫改善（個別観察と支援）
	2	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 整式の加法・減法や単項式の乗法・除法の計算の方法を、具体的な数の計算や第1学年で学習した文字を用いた式の計算と関連付けて考えることができる。 文字を用いて表現したり、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、命題が成り立つことなどを説明することができる。 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象を文字を用いた式などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 整式の加法・減法及び単項式の乗法・除法に関心を持ち、それらの計算をしようとしている。 文字を用いて表現したり、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったり、計算したりすることに関心を持ち、命題が成り立つことなどを説明しようとしている。 		
2章 連立方程式	1	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法や減法の計算をしたり、簡単な式の変形をしたり、簡単な連立2元1次方程式を解いたりするなど、技能を身に付けている。 連立2元1次方程式の必要性和意味及 	<ul style="list-style-type: none"> 連立2元1次方程式をつくることができる。 二つの2元1次方程式に数を代入して、連立2元1次方程式の解であるかどうかを確かめることができる。 加減法や代入法を用いて、連立2元1次方程式を解くことができる。 問題の中の数量やその関係を文字を用いた式で表し、それを基にして 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 単元テスト 練習課題 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業 学習教室 机間指導

		<p>びその解の意味などを理解し，知識を身に付けている。</p>	<p>つくった連立2元1次方程式を解くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ・連立2元1次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ・加減法や代入法による連立2元1次方程式の解き方を理解している。 ・連立2元1次方程式を活用して問題を解決する手順を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元章末レポート ・ふり返しシート ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・連立2元1次方程式などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら，事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり，その過程を振り返って考えを深めたりするなど，数学的な見方や考え方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連立2元1次方程式を変数が満たすべき条件ととらえ，二つの条件が成り立つ変数の値の組を求める方法を考えることができる。 ・加減法や代入法で連立2元1次方程式を解く過程を振り返り，その共通点や相違点について考えることができる。 ・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ，連立2元1次方程式をつくることができる。 ・求めた解や解決の方法が適切であるかどうか振り返ることができる。 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象を連立2元1次方程式などでとらえたり，それらの性質や関係を見いだしたりするなど，数学的に考え表現することに関心をもち，意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2元1次方程式とその解及び連立2元1次方程式とその解に関心をもち，その必要性と意味を考えたり，様々な数を代入するなどして自分なりの方法で解を求めたりしようとしている。 ・加減法や代入法と，その基になっている考え方に関心をもち，連立2元1次方程式を解こうとしている。 ・連立2元1次方程式を活用することに関心をもち，問題の解決に生かそうとしている。 		
3章 一次関数	1	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数の関係を，表，式，グラフを用いて的確に表現したり，数学的に処理したり，2元1次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表したりするなど，技能を身に付けている。 ・事象の中には1次関数としてとらえられるものがあることや1次関数の表，式，グラフの関連などを理解し，知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数の関係を式で表すことができる。 ・1次関数の関係を表す式に数を代入し，対応する値を求めることができる。 ・1次関数の関係を表，式，グラフで表すことができる。 ・1次関数の変化の割合を求めることができる。 ・2元1次方程式の解を座標とみて，座標平面上に表すことができる。 ・座標平面上の2直線の交点の座標を連立2元1次方程式を解いて求めたり，連立2元1次方程式の解を2直線の交点の座標から求めたりすることができる。 ・1次関数の関係を表，式，グラフを用いて表現したり，処理したりすることができる。 ・1次関数の意味を理解している。 ・1次関数の特徴を理解している。 ・変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元テスト ・練習課題 ・単元章末レポート ・ふり返しシート ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業 ・学習教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ $b \neq 0$ のとき、2元1次方程式 $ax+by+c=0$ は、x と y の間の関数関係を表す式とみることができることを理解している。 ・ 連立2元1次方程式の解は座標平面上の2直線の交点の座標であることを理解している。 ・ 具体的な事象の中には、1次関数とみなすことで変化や対応の様子について調べたり、予測したりできるものがあることを理解している。 			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、1次関数としてとらえられる二つの数量を見いだすことができる。 ・ 1次関数の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けるなどして見いだすことができる。 ・ 2元1次方程式を関数関係を表す式とみることで、2元1次方程式の解と1次関数のグラフの関係を見いだすことができる。 ・ 具体的な事象から取り出した二つの数量の関係が1次関数であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴をとらえ、説明することができる。 ・ 具体的な事象の中から取り出した二つの数量の関係を、理想化したり単純化したりして1次関数とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予測したりすることができる。 ・ 1次関数を用いて調べたり、予測したりした結果が適切であるかどうか振り返って考えることができる。 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事象を1次関数としてとらえたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次関数に関心を持ち、具体的な事象の中から1次関数としてとらえられる二つの数量を見いだしたり、その関係を式で表したりしようとしている。 ・ 1次関数の特徴に関心を持ち、表、式、グラフを用いて考えようとしている。 ・ 2元1次方程式と1次関数の関係に関心を持ち、2元1次方程式の解と1次関数のグラフの関係について考えようとしている。 ・ 1次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。 		
4章 図形の調べ方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行線の性質、三角形の角についての性質、三角形の合同条件などを、数学の用語や記号を用いて簡潔に表現するなど、技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対頂角や平行線の性質を用いて、角の大きさを求めたり、直線の位置関係などを表したりすることができる。 ・ 多角形の内角の和や外角の和などを求めることができる。 ・ 二つの三角形が合同であることや、辺や角の関係などを記号を用いて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業 ・ 学習教室

1	<p>・平行線の性質, 三角形の角についての性質, 三角形の合同条件, 図形の証明の必要性和意味及びその方法などを理解し, 知識を身に付けている。</p>	<p>表したり, その意味を読み取ったりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同な三角形の対応する辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・命題の仮定や結論などを記号を用いて表したり, その意味を読み取ったりすることができる。 ・対頂角, 同位角, 錯角の意味を理解している。 ・平行線の性質を理解している。 ・「三角形の内角の和は 180° である」ことなどを, 帰納的な方法で示すことと, 演繹的な方法で示すことの違いを理解している。 ・多角形の内角と外角及び内角の和と外角の和の意味を理解している。 ・多角形の内角の和と外角の和の求め方を理解している。 ・図形の合同と三角形の合同条件の意味を理解している。 ・定義や命題の仮定と結論, 逆の意味を理解している。 ・証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している。 ・反例の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習課題 ・単元章末レポート ・ふり返りシート ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
2	<p>・平行線の性質, 三角形の角についての性質, 三角形の合同条件などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら, 事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり, その過程を振り返って考えを深めたりするなど, 数学的な見方や考え方を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対頂角や平行線の性質を見だし, 根拠を明らかにして自分の言葉で筋道を立てて説明することができる。 ・「三角形の内角の和は 180° である」ことなどを, 平行線の性質を用いて説明することができる。 ・多角形の内角の和や外角の和などを予想し, それが正しいことを既習のことに帰着させて考えることができる。 ・三角形の決定条件を基にして, 二つの三角形が合同になるための条件を見出すことができる。 ・三角形の合同条件を用いて, 二つの三角形が合同であるかどうかを考察することができる。 ・三角形の合同条件を用いて, 角を移す作図, 角を二等分する作図などが正しいかどうかを考察することができる。 ・図形の性質などを証明するために, 構想や方針を立てることができる。 ・構想や方針を基にして, 仮定など根拠となる事柄を明らかにし, 筋道を立てて結論を導くにはどうすればよいかを考察することができる。 ・命題が正しくないことを証明するために, 反例をあげることができる。 		
	<p>・様々な事象を平行線の性質, 三角形の角についての性質, 三角形の合同条件などでとらえたり, 平面図形の基本的な</p>	<p>・平行線や角の性質に関心を持ち, その性質を帰納的に確かめて演繹的に導いたり, それを用いて角の大きさを求めたり, 直線の位置関係を表したりしようとしている。</p>		

	3	<p>性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多角形の角についての性質に関心をもち、既習のことに帰着させるなどして、多角形の内角の和や外角の和などを考えようとしている。 ・合同な図形の性質や三角形の合同条件に関心をもち、それらを見いだしたり、三角形の合同条件を用いて図形の性質などを考えたりしようとしている。 ・図形の性質などを証明することに関心をもち、その必要性と意味を考えたり、証明の方法について考えたりしようとしている。 		
5章 図形の性質と証明	1	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形や直角三角形や平行四辺形などについての性質、直角三角形の合同条件などを、数学の用語や記号を用いて簡潔に表現するなど、技能を身に付けている。 ・二等辺三角形や直角三角形や平行四辺形などについての性質、直角三角形の合同条件、図形の証明の必要性と意味及びその方法などを理解し、知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形の性質や平行四辺形の性質、平行四辺形になるための条件などを記号を用いて表したり、その意味を読み取ったりすることができる。 ・三角形や平行四辺形の性質の証明から、辺や角の関係などを読み取ることができる。 ・証明を読んで見いだした図形の性質を、記号を用いて表すことができる。 ・二等辺三角形の性質を理解している。 ・直角三角形の合同条件とその必要性を理解している。 ・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を理解している。 ・長方形、ひし形、正方形、平行四辺形の関係などを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元テスト ・練習課題 ・単元章末レポート ・ふり返しシート ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業 ・学習教室 ・机間指導 ・指導助言 ・指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形や直角三角形や平行四辺形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形の性質を調べ、証明することができる。 ・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を調べ、証明することができる。 ・図形の性質の証明を読み、新たな性質を見いだすことができる。 		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象を平行線の性質、三角形の角についての性質、三角形の合同条件などでとらえたり、平面図形の基本的な性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や平行四辺形の性質などに関心をもち、それらについて調べ、証明しようとしている。 ・図形の性質の証明を読むことに関心をもち、新たな性質を見いだそうとしている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・起こり得る場合を順序よく整理して、簡単な場合について確率を求めるなど、 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数回の試行の結果から、相対度数を計算し確率を求めることができる。 		
6章 場合の数と確率					

	①	<p>技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確定な事象の起こる程度を数を用いて表すことができること、確率の必要性と意味などを理解し、知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得るすべての場合を求め、同様に確からしいことを基にして、簡単な場合について確率を求めることができる 問題を解決するために、起こり得るすべての場合を求めたり、確率を求めたりすることができる。 確率の必要性と意味を理解している。 確率を用いて問題を解決する手順を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 練習課題 単元章末レポート ふり返りシート 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 学習教室 机間指導 指導助言 指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
	②	<ul style="list-style-type: none"> 確率などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行を行うなどして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取ることができる。 同様に確からしいことを基にして、確率の求め方を考えることができる。 多数回の試行から求めた確率と、同様に確からしいことを基にして求めた確率を比較し、その関係を考えることができる。 問題を解決するために、確率を用いて、不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ説明することができる。 		
	③	<ul style="list-style-type: none"> 確定な事象について、その起こる程度を調べたり、確率を用いて不確定な事象をとらえ説明したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 確率に関心をもちその必要性と意味を考えたり、不確定な事象の起こりやすさについて調べたり、確率を求めたりしようとしている。 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明することに関心をもち、問題の解決に生かそうとしている。 		
7章 箱ひげ図とデータの活用	①	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲の必要性と意味を理解することができる。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲の必要性と意味を理解している。 箱ひげ図をかいたり、四分位範囲を求めたりすることができる。 箱ひげ図や四分位範囲などを活用して、問題を解決する方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 単元テスト 練習課題 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業 学習教室 机間指導
	②	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、表現することができる。 箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、見いだした結論や過程を批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元章末レポート ふり返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> 指導助言 指導方法の工夫改善 (個別観察と支援)
	③	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲のよさを実感して粘り強く考え、箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、箱ひげ図や四分位範囲を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図や四分位範囲の必要性と意味を考えようとしている。 箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、表現しようとしている。 箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 箱ひげ図や四分位範囲を用いた問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 	